

南山遺跡の発掘の成果

調査場所	京田辺市三山木越前9番地他	発掘機関	京田辺市教育委員会
委託者	橋本不動産株式会社		NPO法人文化財支援センター
調査期間	平成21年2月14日～4月24日終了予定	発掘作業	NPO法人文化財支援センター
調査面積	866m ²	発掘理由	宅地開発に伴う緊急発掘調査
検出遺構	弥生時代中期の竪穴住居址ほか	出土品	弥生時代中期の土器・石器ほか整理箱15箱

1. 発掘調査のきっかけ

今回の発掘調査は京田辺市三山木越前9番地他に計画された宅地開発に伴うもので、主に弥生時代の集落遺跡を中心とする南山遺跡の保護のため、文化財保護法に基づいて実施しています。

2. 発掘調査の内容

今回の調査で見えられた主なものは弥生時代中期の竪穴住居跡13棟、多数のピット群、古墳時代後期の土坑2基で、2～3回の建て替えが行われたとみられほとんどのものが重複して発見されました。

竪穴住居跡の平面的な形は円形のもの3棟、隅丸長方形のもの5棟、隅丸方形3棟、後世の削平のためよくわからないものが2棟あります。

それぞれの大きさと形は以下の通りです。

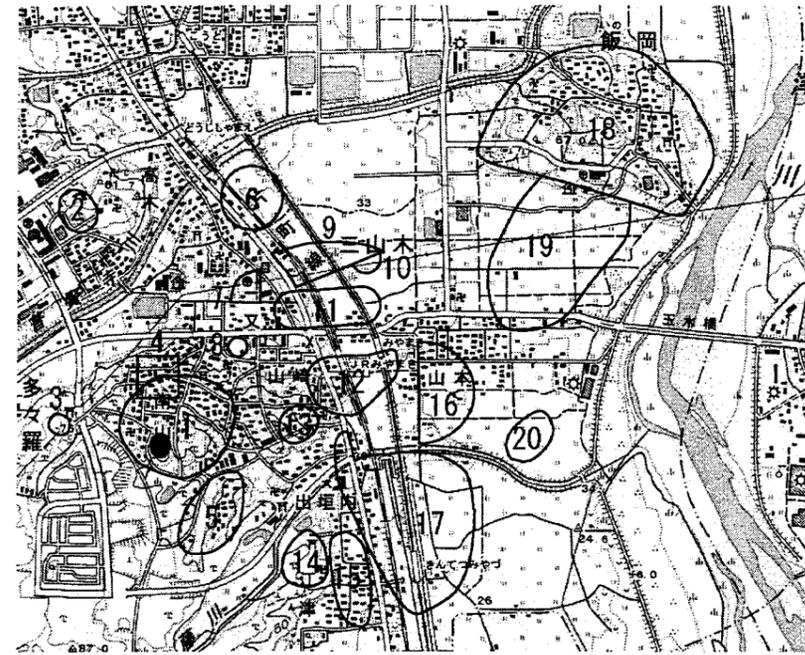
住居跡1	6.3×5.0m	隅丸長方形	住居跡8	不明	隅丸方形か長方形
住居跡2	6.5×?m	隅丸長方形	住居跡9	5.2×4.0m	隅丸長方形
住居跡3	4.5×3.5m	隅丸長方形	住居跡10	直径5.0m	円形
住居跡4	1辺4.5m	隅丸方形	住居跡11	1辺4m	隅丸方形?
住居跡5	1辺5.0m	隅丸方形	住居跡12	3.0×2.5m	隅丸方形
住居跡6	直径6.0m	円形	住居跡13	不明	隅丸方形か長方形
住居跡7	直径6.0m	円形			

出土遺物には弥生土器中期の壺・甕・高坏・鉢などの土器類のほか、鍬や石包丁などの石器や板状鉄斧が出土しています。

3. まとめ

今回見つかった弥生時代中期の集落跡は住居址の形状が円形のものから方形のものへと変わっていく過程が知られる貴重な発見となりました。また、京田辺市の発掘調査でこれだけの竪穴住居址がまとまって発見されたものはやや時代の下がった後期の田辺天神山遺跡に次いで2例目となり、中期では初めての発見となりました。今回の調査地点は南山遺跡の南端に当たる部分でさらに北側に広がる可能性があり、集落の正確な範囲は今のところ不明ですが、かなり広範囲になると思われます。そのためこの集落跡は南山城での拠点的な集落の一つと考えられます。

また、この付近では弥生時代後期になってから方形の竪穴住居跡が出現しますが、今回は中期後半のより古い時期での出現となりました。このことは伊勢湾西岸地域の影響を受けているものと考えられます。



- 今回調査地
- 1 南山遺跡
- 2 田辺天神山遺跡
- 3 口駒ヶ谷古墳
- 4 南山城跡
- 5 西維遺跡
- 6 野上遺跡
- 7 田中西遺跡
- 8 上谷遺跡
- 9 田中東遺跡
- 10 東角田遺跡
- 11 二又遺跡
- 12 三山木遺跡
- 13 山崎古墳群
- 14 三山木廃寺
- 15 佐牙垣内遺跡
- 16 直田遺跡
- 17 宮ノ下遺跡
- 18 飯岡遺跡・飯岡古墳群
- 19 古屋敷遺跡
- 20 遠藤遺跡

図1 周辺の遺跡 (国土地理院1/25000地形図「田辺」を使用)

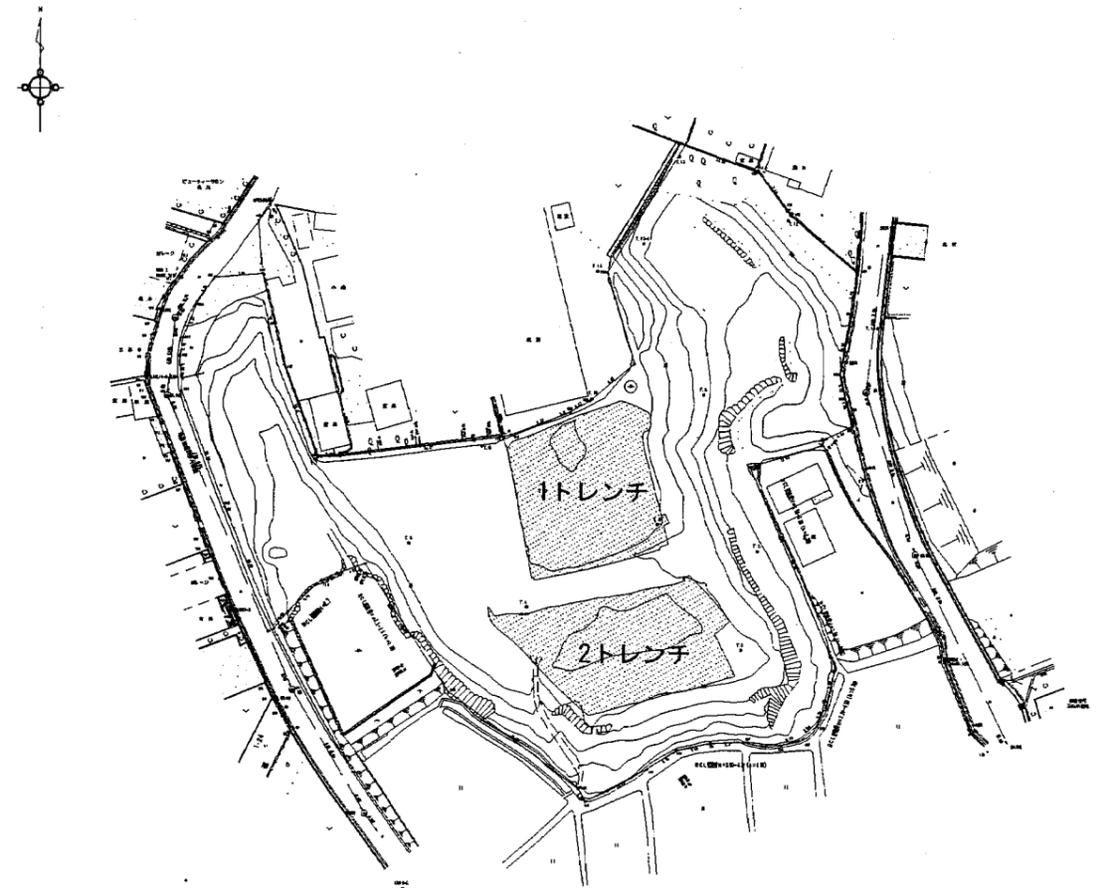


図2 調査区設定図

南山遺跡 遺構平面図

